



聖アンデレ教会 教会報

日本聖公会東京教区 聖アンデレ教会
〒105-0011 東京都港区芝公園3-6-18
TEL 03-3431-2822 FAX 03-3434-5698
www.st-andrew-tokyo.com

さかえ

第 377 号

発行人：牧師 司祭フランシス下条裕章
編集人：リチャード倉辻明男
セバスティアーノ林圭佑
エレミヤ大岡 祐一朗

顕現によって、私たちには尊く大いなる約束が 与えられています (ペテロの手紙Ⅱ 1 : 4)

司祭 フランシス 下条裕章

人は様々な暦を用いて生活しています。国や地域、また様々な自然環境や歴史、また人々の経験に基づいて、さまざまな暦が編まれてゆきます。暦は文化の表れ、そして暦を共有する人々は同じ文化の担い手なのだと言われます。教会にも教会暦(チャーチ・カレンダー)と呼ばれる暦が古くから存在し、教会の活動を支えてきました。私たちが手にしている祈祷書にもそのはじめのところに教会暦が掲載され、一つの信仰共同体の存在をはっきりと示しています。そして教会の暦を読み解くと、他の教派と共有する教会の文化の存在を知ることができ、また聖公会としての特徴や特性を知ることができ、さらに学びを深めるなら、キリストの教会の歴史にもきつと触れることができることでしょう。

教会の暦では、神のみ心を表すものとして、イエス・キリストにまつわる出来事とその基本となり、聖書の物語やキリストの弟子たちの伝説がその暦を彩っています。

そして私たちは今、この暦の「顕現節」を過ごしていることになりました。この呼び方は、エピファニー(顕現日)に由来

しています。すなわち飼葉おけに眠る幼子イエス・キリストのもとを、東方の賢者が星の導きによって尋ねたという出来事を、クリスマスから十二日を経たこの日に記念することとし、あるいは成人したイエスが洗礼を受けたことを憶える日などとされて来ました。そして、顕現節は、イエスがその存在をこの世界に、例えば異邦人である賢者に、あるいは世の人々の前で洗礼を受ける姿を明らかにされたように、さらに、カナという村で最初の奇跡を行って人々の婚宴を祝福するなど、イエスを通して神の力の表れが顕示・実現したことを憶える期節とされています。

また顕現節は、降臨節・降誕節というクリスマス(降誕日)にまつわる期節と、大齋節・復活節というイースター(復活日)に関わる日々をつなぐ位置にあります。イエスご自身の誕生と復活の間に、この世界と教会に示された神からの最高の祝福のしるしの間におかれたこの期節です。その時に私たち教会は、この世界に歩まれるイエスの姿と、そこに示された神のみに心を思い起こそうとします。ここに様々なエピソードに表れる

神のみ業の力強さや不可思議さは、ともすると日常に埋没し神への信頼を失わせるような思いへの大切な刺激。あるいは諦めや落胆、さらには絶望へと私たちを導こうとする力に対して、「私たちが求めまた思うところの一切を、はるかに超えてかなえてくださることが出来る方」(祈祷書・感謝聖別の栄光の唱え)の思いを確かめ、またそのためこの世に降誕し、私たちとともに歩み、私たちの先駆けとして死んでよみがえられた方の存在への信頼を新たにするチャンスであるともいえます。生きるにも死ぬるにも、神との新しい契約、主イエスの「世の終わりまでいつもあなたがたと共にいる」(マタイ二八・二〇)、「二人または三人が私の名によって集まるところには、私もその中にいる」(同一八・二〇)という約束は決して反故にされることはないのです。だから、私たち教会とその暦は常に「希望」指し示します。キリストの示された愛の内に、常に、私たちこの世のものが、育まれ続けてゆくという希望は、頑なな心と変化してゆくことへの恐れから、私たちを解放しつづけるのです。

クリスマスの様子

クリスマス礼拝報告

イサク 鈴木正敏

今年の降誕日が日曜日となり多くの方々が教会にお集まり下さいました。二十四日の降誕日前夕の礼拝は昨年同様ライブ配信、第一聖餐式から第三聖餐式は基本一人一回参加とし予約制なしで又青少年・宣教共育担当の協働で「動くクリブ」というイベントを企画、二十五日の午後にごどもの礼拝とイベントを行うスケジュールでクリスマス礼拝が行われました。

●十二月十八日

十三時 ガールスカウトクリスマス

参加者 三十一名

十四時 ボーイスカウトクリスマス

参加者 六十五名

●十二月二十四日

十九時 唱詠による夕の礼拝

聖職・アコライト・聖歌隊

(ライブ配信)

二十二時 第一聖餐式

参加者 五十一名

●十二月二十五日

七時半 第二聖餐式

参加者 二十六名

十時半 第三聖餐式

参加者 百十七名

十三時半 こどもとともにささげる

クリスマス礼拝

参加者 六十五名

十四時半 「動くクリブ」

例年のごとく降臨節前よりクリスマスツリー・聖堂ホール周り、前庭

の電飾・クリブ・アドベントクラウンの準備から始まり、聖具磨き、窓ガラス清掃・落葉の清掃・こどものクリスマスプレゼント用意・クワイヤの奉唱そして「動くクリブ」の企画、準備等多くの皆様のご奉仕、ご協力、ご参加によって二日間それぞれ素晴らしいクリスマス礼拝、イベントをお捧げする事が出来ました。事心より感謝申し上げます。

コロナ感染症の一日も早い終息を願い、二〇二三年にはこどもたちが「クリスマス・ページェント」を演じられるよう又皆が一緒に集える礼拝、イベントが戻ってきますよう。「感謝と祈りを込めて」



クリスマスの物語ツアー

「動くクリブ」と銘打った今年のイベント。今までの聖劇と違うアプローチでした。どこが違う？そうです！出演者が動かず、観る側が動いて物語の場面をツアーする。

子どもの礼拝が終わったあと、外に出て、牧師館↓スカウトハウス前↓聖アンデレホール和室↓ホール本館↓回廊↓礼拝堂と聖劇の場面に応じて設けられたステージを観ながら教会の敷地内を巡り最後にイエス様のいる馬小屋のある祭壇前に辿りつく仕掛け。こどもたちは、その時々、自分たちも参加している気持ちかな？二〇〇〇年前のクリスマスの

物語を身近な出来事として体験できる仕掛けとなっております、演じる側も観る側も肌でクリスマスを迎える事が出来た。YouTube聖アンデレ教会広報チャンネルにて当日の動画も公開。(さかえ編集部)



洗礼・堅信を受けて

お祈りをありがとうございます。

マリア 水野晴美

長年通い慣れた神谷町で、新しい景色を見ています。地図の中心は高台の教会に移り、そこから坂を下りて次の一週へと向かいます。

二〇二二年のイースターに訪ねるまで福音書のYouTube配信に培われた、コロナ禍の月日がありました。「私が話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている」。言葉に宿る主の力に動かされ、心が古い岸を離れた今、やがて必ず実を結びとの約束を信じて、聖餐の列に並びます。

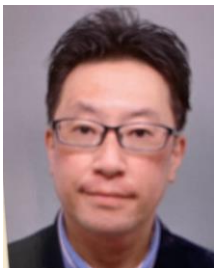
先日、前の方のTシャツの背にダ・ヴィンチの名画がプリントされています。最後の晩、十字架の死を控えて使徒たちにパンと葡萄酒を分かち与えるキリスト。その復活に、時を超えてここで与っているということ。

夏から秋、そして冬へと、現実こんなこともあるのだと思うような偶然が重なり、日常に、仕事に、周りの方々との間に、主が生きて働かれています。日々です。

堅信と研心

山本博司

二〇一七年一月より私は日本聖公会アンデレ教会に導かれ信仰を新たにこの度の堅信式を迎える事ができました。只々感謝の気持ちで一杯です。アンデレ教会を迎えられてからこの度の堅信式までの約六年間、籍は前にお世話になりました他教会に預かってもらった状態で、それに気が付いて慌てて堅信式を受け晴れてアンデレ教会の一員にさせていただきました。コロナなどで生活がバタバタと慌しかったのも多少ありましたがのんびりした性格な故、自分らしいなと思えます。先輩方には共にカレを作ったり行事に連れて行ってもらったりなど少しづつ思い出が作れば良いなと思います。今私の心の中ではダルマさんの片方の目に印が付けられたなあと思っています。もう片方は今後の心の研心次第かと思えますので、「求めよ、さらば与えられん」いつか成就することをお祈りし、また兄弟姉妹と力強く信仰を、御心に添う歩みができるように教会生活が送れればと願います。



北関東教区との協働宣教

巡礼プログラムについて

執事スザンナ中村真希
北関東教区との宣教協働推進の一環として「巡礼プログラム」が実施されています。お互いの教区の教会を訪問し、その教会の様子だけでなく、置かれている地域、ミッションを知り、学び、分かち合う企画です。少人数で進めています。旅のレポートを通して教会や地域の様子が伝わり、各教会・グループ・有志などが企画されていけばという思いで行われています。教区を越えて他教会また自分たちのことを知るチャンスにもなりますので、ご注目いただければと思います。

歴史の街日光へ 日光真光教会を訪ねる

リチャード 倉辻明男

下条、中村両先生と私たち夫婦、A氏ご夫妻、G姉で「日光真光教会」を訪れたのは十月十日この日は、晴れの特異日が、なぜか当日の日光は雲がとれず、厚い霧に覆われていた。金山先生、越智先生、久保先生と宇都宮聖ヨハネ教会の方々の笑顔の歓迎を受けて旅をスタートすることが出来た。

湯葉で美味しい昼食を頂き、真光教会、金谷ホテル歴史館、金谷ホテル見学、日光市内散策の順で歴史ある街を拝見し貴重な時間をすごした。日光真光教会は、ガーディナーの設計で、県の指定有形文化財に指定されている貴重な建物、久保先生のご説明で、教会の歴史、金谷ホテルや地域との関係の話し、大谷川の石

を使った建物として貴重な財産である礼拝堂のお話を伺う事が出来た。

欧州の片田舎にあるような石造りの教会が果たしてきいた役割について学びこれからのような繋がりを作り上げるか大きな課題を背負っての帰京となった。



前橋キリスト教教会 巡礼紀行

マーガレット 後藤真由美

紅葉の中晴天にも恵まれた十二月三日、聖アンデレ教会有志と教役者約二十名は前橋聖マツテア教会に向かいました。近隣に他教派の教会もあり、教会を訪問しお話を伺い、交わりの時を共にするという企画のバスツアーです。聖マツテア教会では手作りのクッキーで暖かいおもてなしを受けました。その後、教団前橋教会を訪ねました。外観は緑を基調とし、パイプオルガンの大きさに感動しました。昼食は会館に戻り、人気の鳥重を信徒の方々と一緒に頂き、午後からは県庁に伺い三十二階の展望台からパノラマの素晴らしい景色を楽しんだ後、カトリック前橋教会、前橋ハリストス正教会を訪問し、夕の礼拝を聖マツテア教会で共にお捧げいたしました。帰り道、道の駅に寄り地元のお野菜等を買いました。宣向かいました。宣教共育・企画担当委員の皆様、福田司祭、宮崎司祭、鈴木ドライバー、感謝の一日でした。



礼拝での奉仕の役割

「聖書朗読について」

執事スザンナ中村真希

礼拝の中での「聖書朗読」は、その日読まれる聖書のみことばを、会衆の皆さんに届ける役割を表します。はつきり、ゆっくり、丁寧に、そして言葉の意味を可能な限り自分なりに理解するように努め、「正しく」読むことよりも「伝える」ことに重点を置いて臨むことが望ましいとされます。慣れていく方は、堂々・スラスラとお読みになるでしょうし、一度も朗読されたことのない方は、人前で聖書を読むなんて無理です、と断りたくなるかもしれません。先に練習するために朗読箇所を持ち帰る方もいれば、その場で急に頼まれて急いで目を通し、奉仕される方もいます。幅広く信徒の方に担っていただくご奉仕の一つです。

英国では、教会の中で奉仕する信徒、「レイリーダー」と呼ばれる方々が活躍していますが、この「リーダー」は「Reader」、つまり「朗読者」です。聖職・信徒に限らず、「キリスト者」としての第一の務め、それはみことばに聴きみことばを生き、みことばを伝えるべくこと。聖書を読み、その言葉を伝えることは、クリスチャンに与えられた最も基本で大切な務め、特権であるということになります。ですので、皆さん、ぜひ積極的に朗読の奉仕に携わっていただきたいと思えます。大切な心を含めてみことばを伝えること、そしてどのような奉仕にも言えることですが、神様にお献げしているという気持ちを忘れないことです。あらかじめ準備をしておくことはとても大切ですが、突

然声をかけられても「はい」と応答できることもまた大切なことです。理想を言えば、いつ何のお召しがあっても準備ができていて、ということですが、それは私たちにとって常にチャレンジです。「恐れるな。主があなたとともにおられる」ということを信じ、少なくとも一年に一回は朗読のご奉仕にあたれるよう、心がけることをお勧めします。

聖アンデレ教会の足跡第三回

二〇〇六年 ①

八月 スカウトハウスを作る

聖アンデレ教会では、港第十四団のボーイスカウトと東京第三百三十八団のガールスカウトが活動しています。それぞれが、教会と地域社会との交わりの場として、この活動をよりよく理解し、積極的に行うための拠点として、教会信徒・スカウトの関係者・子どもたちみんなで、ログハウスを手作りしました。二〇〇六年八月十二日から八月二十日の暑い中、フィンランドより仕入れたログハウスのキットを多くの人たちの参加で組み立てて完成することが出来ました。作業に携わった子ども達にとっても貴重な思い出になったことと思います。作られて十六年経ちスマスやバザー等の教会行事を信徒と共に支える拠点になっています。



聖アンデレ教会 将来計画の経過報告

ポーリーン 田口知子

今年、前庭ならびに西側崖地プロジェクトチームの活動として、崖地安全対策として、(一)擁壁+道路を造成する案、(二)樹木を残して崖の倒壊を防ぐ法面保護を行う案の二つの方向について検討してきました。施工業者に依頼して具体的な工事方法を検討し、概算見積を作成してもらいました。その結果、崖の工事は、(一)擁壁+道路工事は、想像以上に時間もお金もかかることがわかってきました。(二)は比較的現実的なのですが安全対策として有効かどうかは、地盤調査と測量を行わなければ結論が出ない、ということがわかりました。地盤調査は来年度、実施する予定で予算を組み、引き続き検討していきます。

一方で老朽化している牧師館の再建については、まずは新築の方向性について港区と協議を進め、条件を整理して実現可能な形が見えてきました。しかし、このプロジェクトは聖アンデレ教会だけでなく、教区事務所、聖オルバン教会と、多くの関係者に関するもので設計条件を決めるのも大変です。建物の広さ、新築か改築か、等、建築を考えていくための前提条件を、決めていくことが来年の目標になっています。

プロジェクトチームでは、そのための勉強会として、教会建物の再建を経験された他教会を訪問し、当時の経験や経緯、使われ方など、携わった方にお話しを聞くことを実施しています。一〇月には府中の聖マルコ教会を訪問させていただき、執事の

藤田先生、教会委員さんのお話しを伺うことができました。聖マルコ教会は古くからあった聖堂を改修し、隣にパリッシュホールという信徒会館を新築されています。道向かって開かれた明るい中庭とガラス貼りのパリッシュホールは、だれでもアクセスしやすく、明るいホールです。ピアノ教室や絵画教室、猫の譲渡会など、地域の活動にも利用されているそうです。信徒さん以外の方にも積極的に開いていこうとする教会の在り方、活動が垣間見える建物のつくり方など、とても勉強になりました。聖アンデレ教会でもこれから、皆様と一緒に考えていけたらと思います。



コイノニア

《教区会信徒代議員および教会委員選挙結果》

【東京教区教区会信徒代議員】

・倉辻明男 松村信子 三好忠彦

【聖アンデレ教会 教会委員】

・佐藤三重子 鈴木茂 松村信子

・三好忠彦 村田信子 柳生義人

横田美幸



聖アンデレ教会
ホームページ



聖アンデレ教会
フェイスブック



聖アンデレ教会
広報チャンネル

◇毎主日 週報が発行されています。

教会ホームページでご覧いただけます。
FAX・郵送をご希望の方は事務所までご連絡ください。

◇牧会訪問、自宅や病床での陪餐、ご家族・少人数での礼拝や記念式への参加を希望される方は教会までご連絡ください。

◇教会への月約献金・感謝献金は郵便振替をご利用ください。

ゆうちょ銀行 00160-1-91168
日本聖公会 聖アンデレ教会

◇主日礼拝・平日の公禱をライブ配信しています。
教会HPからご覧になれます。

インターネットやYouTubeなどご不明な点がございましたら、ご遠慮なく教会までお問合せください